



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和5年7月18日

夏休み号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 Tel.045-401-9532 fax045-431-9538



生きるために必要な金銭の使い方をいつ子どもに教えるのか

校長 松久保 伸子

本校では今年度から朝会をなくし、アフターランチミーティングとして毎週火曜日の13時15分からの集会活動を実施しています。ここでは5・6年児童の主催する集会を体育館で実施したり、テレビ放送で学校保健委員会が開催されたりします。その中の一つが、いわゆるテレビ朝会形式の校長講話です。先日の講話では、子ども同士のお金のやり取りはしてはいけないよ、という話をしました。

3歳前後の子どもがお財布を握りしめて、買い物に出かけるテレビ番組を時々見ます。当然失敗もつきものなので、いつもハラハラドキドキしながら見入ってしまいます。今年は夏祭りが再開する場所も多く、小学生が小銭を手にして、祭りに参加する姿も目にする事ができるでしょう。小学校で金銭の使い方を勉強する、その代表的なものは家庭科です。消費生活や環境について考える学習の中で、売買契約について知り、自分の学用品の購入の仕方について振り返ったり、修学旅行のお小遣いの使用計画を立てたりします。その他にも社会科で家庭の買い物の様子を調べることをします。道徳で節度・節制について考える中で、お金の使い方は子ども達の中からよく話題にでてきます。総合的な学習の時間で、学びの方向性の中から金融のプロから学ぶ必要性が出てくれば、出前授業を要請することもあるかもしれません。しかし逆に考えると、生きるのに必要な金銭の使い方の学習は、小学校段階では他の学びの優先性が高く、多くはまだ取り扱われていないこととなります。学年が上がるほど、子ども達がお金を扱う機会が増えますし、夏休みは特にその機会が増えることでしょう。そうすると、ご家庭でのご指導が大切になります。

私個人の感覚ですが、コロナ禍の3年間には自粛生活が影響していたのか、子どもたち同士の金銭のトラブルは少なかったように感じています。それがこのところコロナ以前に戻ってきているように感じます。ゲームのアイテムにはお金がかかっているものが多く、アイテムのやり取りは子ども同士では平等な判断をすることは難しいものです。友達に飲料や物品などをおごる・おごられることも、後々の大きなトラブルのもととなりやすく、いじめにも発展しかねません。もし、飲料を友達の分も買わないと熱中症の危険がある場合は、まずは購入して命を守り、帰宅して家の人にしっかりと話すことが必要です。あとは大人同士で連絡を取り合えばよいと思います。お金のやり取りは、金銭の扱いについて家庭や学校でしっかり学び、自分で稼ぐことができるようになってから、自分の責任のもと行うのがよいのではないのでしょうか。横浜市でも児童・生徒同士での金銭授受はしないこととしています。アフターランチミーティングでは、「オレオレ詐欺」を話の入口にして、篠原小学校の子ども達には、大人になってもお金の扱い方を知らない残念な大人になってほしくないからこそ、今はお金の使い方の勉強を重ねる時期であり、子ども同士のお金のやり取りはしないようにしましょう、と話しました。

ご家庭ごとに考え方はいろいろあるかと思いますが、「お金のやり取りは子どものうちはしない。」という一定の線があれば、判断がしやすくなるかと思います。保護者様には大人向けの資料も発出しています。どうぞよく読んでいただき、この夏、お子様とお金の使い方について話し合っただけであれば幸いです。さあ、暑い夏本番です。8月28日(月)に子ども達に再会できる日を楽しみにしています。